



信州自然探訪図鑑

赤沢自然休養林

木曾林は古くから特に重要な用材を必要とする伊勢神宮、円覚寺、銀閣寺などの建築物以外では、木曾の山林から木材を切り出すことはなかったが、豊臣秀吉による聚楽第・伏見城の造営や徳川家康による江戸城の大改修・名古屋城の造営により、それまで手厚く残されていた木曾の山林は大々的に伐採され衰退していった。

寛文五年に尾張藩は、残された美林地区を留山とし、次いで木曾五木として知られる木々に停止木の指定を設け、ヒノキをはじめとする森林の保護育成を進めている。この制度の厳しさは「ひのき一本首ひとつ」という言葉にも残されるほどで、現在見られる赤沢の木々はこの頃芽を出したものが多いためと思われる。

戦後に国有林に移管され現在に至り、当初は木材の運搬方式として「木曾式伐木運材法」という、川の流れを利用した方法がとられていたが、ダムの建設に伴い、川の利用が困難になったため、森林鉄道が敷設された。木曾郡全体を網羅していた鉄道も運搬の主役がトラックに移行するにつれ次第に寂れ、昭和五十年に国内最後の森林鉄道はついに消滅してしまった。

廃止された森林鉄道もその後の復活と保存を求める声により、樹齢三百年の天然林が残る赤沢自然休養林の中に、当時の面影そのままに森林鉄道を保存することとなり、長野営林局や上松営林署の働きで、機関車の車庫と軌道が完成。車両と資料が運び込まれ、この保存鉄道は昭和六十二年には乗車運行が可能となった。

森林を構成する樹種は、木曾ヒノキを中心とした針葉樹、ヒノキの他にサワラ、ネズコ(クロベ)、アスナロ(ヒバ)、コウヤマキなどが分布する。樹齢は平均三百年と推定されるが、これは江戸時代の文献や、倒木の年輪の調査を重ねて算定された。近年この二帯のヒノキ林はアスナロ林への遷移が危惧されている。なお林班図によると、カラマツやスギは植林木が点在するのみで、天然更新樹はほとんどみられない。

赤沢自然休養林は赤沢美林とも言われ、日本三大美林として知られている。国有林、自然休養林の他、ヒノキ材木遺伝資源保存林、ヒノキ植物群落保護林に指定され、平成十三年に環境省のかおり風景100選に、平成十八年には長野県庁の森林セラピー基地に指定され、日本における森林浴発祥の地とされる。

いあいさつ



長野県環境測定分析協会
会長 勝野 宗一

平成26年度は消費税3%アップから始まりました。

輸出関連企業・建設関連が好調になって来ているとの事でありますが、長野県、我々業界は今だ恩恵に結び付いていないのが現状ではないでしょうか？又、円安による輸入物資の高騰が加わり経営を取巻く環境は厳しい状況と言わざるを得ません。こんな中、技術レベルの向上、コミュニケーションの向上を進めて行きたいと思えます。前年度より準備委員会を立上、進めてきました1都9県の同業技術者・経営者等が集う第25回(二社)日本環境測定分析協会(以下日環協)関東支部主催の環境セミナー in NAGANO が7月24(木)・25(金)ホテルメトロポリタン長野・同親睦ゴルフ会が26(土)長野京急カントリークラブで開催されお

陰様で梅雨も上がり信州らしい好天にも恵まれました。

北條実行委員長(榎エスコ)の提案もあり①信州らしく!

②若い技術者に多く集まってもらう! ③出展者のメリット

が有る様に! を目標として来

ました。私としては色々な人々(日環協関東支部運営委員・事務局、長野県、長野市、信州大学、展示・新技術

発表メーカー、1都9県より参加の団体・企業、当会会員

等、等)のご協力により思惑以上の結果であったと感謝・感謝の気持ちで終わる事が出来ました。実行委員長もほぼ満足であったと推測致します。

本セミナーを開催するに当たって日環協、各ブロック、県

単と交流会を持つことができ課題は会員の地位向上と経営の健全化と認識致しました。

①任意団体でなく法人格を持つて運営にあたる。(埼玉県

・神奈川県は登記済み)

②計量検定所と情報交換、県環境技術部門との協力強化による、会員個人、団体・企業

の技術・質のレベルアップ。

③会員個人、団体・企業の個性化推進による。

これらを今期から情報収集、委員会などを立ち上げた

いと思えますので理事各位、各部会員の皆様には更なるお

力をお願い申しあげます。

(二社)日本環境測定分析協会、新潟県環境検査協会は40

周年を過ぎ、長野県環境科学技術者協議会、第41回研究発表会

を6月6日に開催され私も出席致しました。その折、第1回

いあいさつ



長野県環境部
部長 山本 浩司

長野県環境部長の山本浩司でございます。

長野県環境測定分析協会の皆様方には、日頃、本県の環

境行政の推進に對しましてご理解、ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

から第40回までの要旨集(発表演題790第)CDを頂戴致しました。この中には長野県内の

その時々の問題事項(チェルノブイリ原発事故の影響・松本

サリン事件)が含まれております。又当協会員も第30回より

10題の発表もふくまれており大変貴重な資料であります。

一時代は終わり新たな時代(各所世代交代が行われ若返

つており私が最年長?)に入つたと実感している今日この頃であります。

このたび、第25回(二社)日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー in 長野(2014)が、盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。毎年開催されているこのセミナーは環境測定分析に関する知識や技術の普及に貢献しており、第25回という節目となる今年のセミナーが長野県で開催されたことは大変意義深いことでもあります。「信州らしく!」をはじめとする3つのメインテーマのもと2日間

にわたるセミナーを成功に導

かれた長野県環境測定分析協会の皆様方に対しまして心から敬意を表する次第です。

さて、今日の環境問題が、地球温暖化や生態系の変化など地球規模まで広がりを

見せる中、長野県では県民の貴重な財産である本県の美しく豊かな環境を、確実に未来へ引き継いでいくことが、極めて重要な課題となっております。

このような状況を踏まえ、長野県では、県の総合5か年計画である「しあわせ信州創造

プラン」及び「第三次長野県環境基本計画」に基づき、県民、事業者、行政など、あらゆる主体の参加と連携により、自然エネルギーの活用・循環型社会

の構築・生物多様性の保全に向けた取組を進めております。

協会の皆様におかれましては、こうした取り組みにご理解をいただくとともに、今後とも、その高い知見や専門性を通じて本県の環境の保全のために引き続きご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、貴協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

あいさつ



長野県環境保全研究所
所長 倉沢 幸一

長野県環境保全研究所長の倉沢幸一でございます。当研究所は、平成16年の「旧長野県衛生公害研究所」と「旧長野県自然保護研究所」の統合から早10年を経過いたしました。長野県環境測定分析協会の皆様には、統合以前から変わらぬご理解とご協力を賜ってまいりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

この間、「長野県の豊かな環境の保全と保健衛生の向上を図るため、行政施策を技術的にバックアップできる体制と技術・知識の向上に努め、県民に開かれた信頼される研究所」を目標として、さまざまな課題に取り組んでまいりました。しかし、「豊かな環境の保全」や「保健衛生の向上」と申ししましても、その分野は多岐にわたっており、例えば、国内有数の自然環境を誇る長野県におきまして

も、生物多様性の保護・保全や野生動物による農林業被害は県内各地で大きな問題となっております。加えて地球温暖化による影響も懸念され、その適応策の開発も喫緊の課題となっております。また、水環境では、湖沼や河川の水質保全にとどまらず、将来にわたって水資源の保全をしていくことが求められています。大気環境については、県外や国外からの大気汚染物質の移流が問題となっております。さらに、保健衛生の面では、新型インフルエンザやノロウイルスなどの感染症対策や食品中の残留農薬など汚染物質等の検査は、「安全・安心」な社会に必要な、欠くべからざるものとなっております。また、震災による放射能汚染や食品への農薬の混入などに係る試験検査といった危機管理への対応も重要な業務となっております。

このように広範囲にわたる問題について、行政を技術的にバックアップするためには、技術の研鑽と知識の向上に努めることは言うまでもなく、今後も官民を問わず、多くの皆様と連携

し、一体となって協力していくことが重要となります。貴協会が、長年にわたり、技術研修の実施や分析精度管理事業への参加、研究事例発表など、一貫して分析技術と知識の向上に取り組んでこられましたことは、正に先駆けとも言えるものであり、心から敬意を表する次第です。また、皆様には研

あいさつ



長野県計量検定所
所長 近藤 友巳

長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から県の計量行政の推進に対し、大変ご理解とご協力を賜っておりますことに厚く感謝申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和53年の設立以来、「環境計量に関する技術の向上と会員相互の協調及び親睦を図り、もって生活環境の保全並びに改善に資する」ことを目的に、様々な活動を展開されてきました。とりわけ、分析技術の向上と信頼

究所の業務を通じて一方ならぬご支援を賜り、県の環境行政にもご尽力いただいております。引き続き、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。結びにあたり、貴協会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

性の確保に向け積極的に取り組まれる中で、本県の環境保全、環境対策において、大きな貢献をされてきたことに深く敬意を表する次第です。

去る7月24日から25日には、長野市において「第25回日環協・関東支部環境セミナー in Nagano(2014)」が盛大に開催されました。

諏訪湖のアオコや信州製超小型衛星「ぎんれい」をテーマにした信州らしい基調講演、多くの日環協会員企業等による技術発表会、機器メーカー等による技術・PR発表、展示など、盛りだくさんの内容が二日間に凝縮され、素晴らしいセミナーでした。これは、実行委員会を中心と

した綿密な事前の準備、会員の皆様方の全面的な協力があったり、皆様方のご努力に改めて敬意を表する次第です。

さて、私たちの住む信州の美しい景観や豊かな自然環境、安心・安全な生活環境は、長野県のかげがえのない財産であり、これからも大切に守り、未来へとつなげていくことが、私たちの大きな責務だと思います。

そのような中で、貴協会の果たす役割は、ますます重要かつ複雑になると思いますが、会員の皆様方の英知を結集し、会員相互の連携を深める中で、困難な課題を乗り越え、さらに発展されますことを大いに期待します。

私も、計量検定所におきましても、県民生活や経済活動の基盤である「適正な計量」を確保していくため、各種の事業を展開しておりますが、とりわけ、環境の分野では貴協会、並びに会員の皆様と連携・協力しながら県民の安全・安心を計量の面から支えてまいりたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に、貴協会並びに会員の皆様方の今後益々のご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

第25回 (一社)日本環境測定分析協会 関東支部 環境セミナー in Nagano (2014)

環境分析に関する技術及び技術関連について技術者の調査・技術発表、意見交換により新知見を得ることにより環境分析技術の一層の向上を目指して「第25回(一社)日本環境測定分析協会 関東支部 環境セミナー in Nagano」が7月24日～25日、長野市のホテルメトロポリタン長野で開催された。

今年のセミナーは「①信州らしく! ②若い技術者に多く集まってもらう! ③出展者のメリットが有る様に!」をメインテーマに「式典」、「基調講演」、「研究発表」、「分析機器メーカーPR」など2日間にわたり多彩な行事が行われた。

環境セミナー初日には、環境セミナー実行委員長の北條敏彦氏による「開会宣言」で開会し、(一社)日本環境測定分析協会 関東支部支部長の津上昌平氏の挨拶、ご来賓として長野県環境部部長=山本浩司氏(代:塩谷幸隆課長)、長野市長=加藤久雄氏(代:黒田和彦副市長)、(一社)日本環境測定分析協会会長=田中正廣氏にそれぞれ挨拶をいただいた。



津上 昌平氏



田中 正廣氏



基調講演では独立大学法人信州大学学術研究院教授の朴 虎東(パク ホドン)氏による「諏訪湖におけるアオコ毒の生成・蓄積そして分解」と独立大学法人信州大学工学部特任教授の中島 厚氏による「信州製超小型衛星(ぎんれい)の開発」の公演が行われた。

続いて分析機器メーカーによる最新分析機器技術PR発表が行われ参加者は真剣に聞き入っていた。



朴 虎東氏



中島 厚氏

また、2日目は(一社)日本環境測定分析協会 関東支部会員企業技術者による調査・技術発表が第一会場の浅間B会場で、放射能クロスチェックについて=(鈴木幹夫氏・日環協放射能測定分析技術研究会)他8題、第二会場の浅間C会場で、電子顕微鏡を用いた建設建材の観察と分析=(沢木大介氏・株太平洋コンサルタント)他8題。合計18題の多くの調査・技術発表が行われ、各会場とも満室状態になり、技術研究発表に耳を傾け熱心に傍聴。発表後の質疑についても多くの質問がなされ、有意義な研究発表会となった。また、ランチョンセミナーは、別会場でピーエルテック(株)様の主催による連続流れ分析装置「オートアナライザー」の紹介があり、当初35名の予定が55名まで参加者が増え、新しい分析機器への関心がかがえた。



技術発表会

この環境セミナーは、(一社)日本環境測定分析協会 関東支部(1都9県)で開催。今回で25回目の開催になり、この四半世紀で長野県開催では平成元年に小諸グランキャッスルで第1回目の環境セミナーが行われ、平成14年には軽井沢プリンスホテルで2回目の開催、今回は25回目の節目としてホテルメトロポリタン長野で開催され、延べ220余名の参加があった。

分析機器・カタログ展示企業では18社の参加をいただき2日間通して展示があり、多くの参加者が各メーカーのブースに寄り、最新分析機器について質問を行っていた。

懇親パーティーには、機器展示メーカー担当者も加わり総勢220余名が参加される中、長野県環境測定分析協会会長 勝野宗一氏の挨拶より懇親パーティーが始まった。会場には、信州の銘酒コーナーもセットされ、参加者はいち早く信州の銘酒を堪能されていた。余興には、御柱木遣り保存会3人が参加され、諏訪の上社・本宮、上社前宮、下社春宮、秋宮で7年に1度、御柱祭が盛大に行われ、山からのご神木の切り出しから道中の木曳のときに威勢よく歌われ、曳き手の気持を統一するような役割を果たし、木遣りは非常に高い声で歌われ、「歌う」ではなく「鳴く」と言われるくらい保存会の皆様による御柱木遣りは感動モノだった。

中締めでは、次回環境セミナー開催担当の(一社)神奈川県環境計量協議会で27年7月横浜市において開催することの報告がなされ、(一社)日本環境測定分析協会の未来への存続と発展をともに誓いパーティーが終了した。



機器展示会場



御柱木遣り

懇親パーティー

実行委員長ごあいさつ

第25回(一社)日本環境測定分析協会 関東支部 環境セミナー in Nagano(2014) 参加者220余名、展示広告等の協賛企業延べ48社の協力と、さらに長野県・長野市の後援を頂きながら何とか成功裏に開催出来たことは、運営委員会担当者・長環協会員企業の皆様のご支援とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

昨年8月の理事会で環境セミナー in Nagano(2014)の実行委員長を仰せつかったが、昨年度のセミナーの繰越し予算や関東支部からの援助も無いなど、その後には会員企業の展示広告費の割引が決まるなど開催にあたり資金的に気の重い条件ばかりであった。

開催にあたり以下の3つのコンセプトの基で環境セミナーを開催することを了解して頂いた。

まずは、「信州らしさを打ちだそう」として、基調講演は湖沼生態学の権威である信州大学理学部 朴教授と信州大学工学部 中島 特任教授ら著名な先生をお招き頂くことが出来た。技術発表会では自然生物系の複数発表もあり好評であった。また懇親パーティーの余興では諏訪御柱木遣り保存会による本場の輝声に感激すること至極であった。

次には「若手技術者の発表に機会を増やそう」として、従来の技術発表では分析測定技術など5演題程度と少なく、独自性の乏しい内容の発表となっているとの感もあったので、課題分野を分析技術・環境測定・自然生物として長環協会員企業からも4演題を含み18演題を2会場で技術発表が行われた。何れの会場も若手の技術者の発表も増えて活発な討議とともに盛況な状況であった。

最後に「展示広告等の協賛して頂いた分析機器メーカーにメリットのあるセミナーにしよう」である。機器展示ブースを全て通路フロアに設け、参加者が必ず展示ブースを通過するような配置とし、従来では無かった講演次第中に機器メーカー技術・PRを設けた。そのほか、懇親会での機器分析メーカー紹介など行った結果、協賛を頂いた機器分析メーカー分析からは好評を得ることが出来ました。

環境セミナーを無事終えるにあたり、多くの方々のご協力とご支援に再度感謝申し上げます。



実行委員長 北條 敏彦

第14回 長環協ゴルフコンペ開催

総務部会

今年の長環協ゴルフコンペは、日環協関東支部環境セミナー in Nagano (2014) 懇親ゴルフコンペを兼ねて開催いたしました。会場の長野京急カントリークラブは、飯綱山の山麓標高950mの高原にあります。長野市で37.7℃とかなり暑い日でしたので、高原とは言え、熱中症対策に気を付けながらのプレーとなりました。関東支部の方々も参加され、6組(21名)でのラウンドとなり、親睦を深めることができました。当日は、環境セミナーが盛況のうちに閉会の運びとなった翌日ということもあり、晴々とした気分で(スコアは別として)ゴルフを楽しむことができました。結果は、一部の「まさか、連続優勝はないよな」の予想に反して、会長「の勝野 宗一様が連続優勝され、わざわざ持参した優勝カップを持ち帰ることとなりました。」



- ◆開催日/平成26年7月26日(土)
- ◆会場/長野京急カントリークラブ
- ◆競技方法/18ホール 新ペリア
- ◆費用/プレー、飲食費各自負担
- ◆競技結果

順位	氏名・所属	OUT	IN	GROSS	H.C.	NET
優勝	勝野 宗一 (株)環境技術センター	45	51	96	25.2	70.8
準優勝	佐倉 正晃 環境未来株	53	43	96	24.0	72.0
3位	大津 寿 茨城県環境分析協議会	46	45	91	16.8	74.2
B G	竹田 良平 ヒロエンジニアリング(株)	44	42	86	10.8	75.2

優勝者インタビュー

長野県環境測定分析協会親睦ゴルフ第13回(甲信越協議会と合同)松本カントリークラブ、第14回(環境セミナー合同)長野京急カントリーに連続優勝!

家族から多い趣味(ルーツ研究・カラオケ・刀剣鑑賞・蘭科植物鑑賞栽培・ゴルフ・読書・油絵・美鑑賞等々)を絞ったらどう?と言う意見が前からある中、体力低下防止補助に自転車通勤・ゴルフは続けよう!



企業年金の一時金が入り自宅近くの松本カントリーの会員となり週一回は行こうと決め再出発しましたがスコアは纏まらずの日々でした。昨年の環境セミナーin福島の親睦ゴルフ(新ペリア)で隠しホールが当たり思いがけず優勝、その時の商品がスキ焼用牛肉1kg柔らかくとてもおいしく、家族4人で食べきれない程で大好評、パーティも自慢話で大いに盛り上がりました。これにより家族のゴルフ・私に対する理解度も大きく向上しました。

最近、息子も仕事の関係でゴルフを始めたいと一緒に練習場に行き出し、孫も興味がある様で玩具パターで遊んでいます。親子三代一緒にコースを回るのが今の一つの夢です。

又、又、の思いがけない連覇となり遠方よりの参加者も多い中、心苦しい面も多少はありますが天よりの思召しと受け止め賞品の松坂牛・最上級ステーキ用も肉4枚をゲットしたことを早速報告、息子の提案で夏休みに家族全員で味わうことに決定致しました。

勝野 宗一

平成26年度技術研修会実施計画

機能分析

- 高速液体クロマトグラフ(HPLC) /平成26年12月3日
- イオンクロマトグラフ(IC) /平成26年12月11日

専門研修

- 水質分析 /平成26年11月17日~11月21日
- 金属類分析 /平成27年1月19日~1月20日
- 細菌検査 /平成27年1月29日~1月30日
- 騒音 /平成27年1月22日
- 振動 /平成27年1月23日
- 悪臭 /平成27年1月21日
- 農薬分析(GC/MS) /平成27年2月3日~2月5日
- 放射能測定 /平成27年1月14日

Report 2014

イオンクロマトグラフ環境専門研修に参加して

一般社団法人 上田薬剤師会検査センター 吉原 昌志

研修内容は模擬試料を実際に測定し濃度を求めるというものでした。測定の間ICの基本構成や原理、ピーク処理等についてご指導頂きました。さらに測定からクロマト解析までの一連の流れの中で重要なポイントやコツを教わりました。

研修には私を含め3名参加しており、少人数だったので質問もしやすく、また見聞きするだけでなく実際に前処理からICの操作もできました。普段行っている作業でもこの研修を通じて多々気付かされる点があり、改めて勉強になりました。また他社の方とも情報交換や雑談をしたりと、大変有意義な研修でした。今後、他の研修にも参加できればと思います。最後にこのような機会を設けて頂き、誠にありがとうございました。

わが社の
ニューフェイス

第11回

株式会社 コーエス

山本 克さん

未知の業種に入社してみ

私は大学時代には機械工学について学んでいました。機械工学を学んでいた理由としてはいずれ製造業の盛んな諏訪地方に戻って就職するには有利になるのではないかと考えていたためです。しかし、就職活動を通して様々な業種の会社の説明を聞いているなかで日常生活に関係する環境分析という仕事に興味を持ったため、製造業ではなくこの仕事を選びました。

入社してからは日常生活に関係しているにも関わらず、あまりにも知らないことが多すぎて日頃自分がどれだけ視野が狭く勉強不足なのかを痛感しました。また、普段はばい煙測定や



水のサンプル採取等を主にさせていただいておりますが、入社した頃はなにもわからず「ただ取ってくるだけ」になってしまっていました。しかし、分析の作業を正確にやり、データをだしただとしてもサンプル採取の段階でミスをしてしまつてはすべてが台無しになり、信頼性のないデータとなつてしまいます。信頼性のあるデータを提供するためにも、サンプル採取の方法、基準に関係する法律、分析方法等をしっかりと学んでいきたいと思ひます。

事業所訪問

第12回

長野市

株式会社 科学技術開発センター

当社は1984年2月に設立し、今年で32年目を迎えております。創業以来、水・大気・土壌などの環境調査を通じて、確かな技術と高い信頼性のあるデータを提供させていただくことを信念として地域社会に貢献させていただいております。

私は日々変化しており、環境調査に対するニーズも多種多様となっております。そのようなニーズに応えるべく、最新機器の導入や外部講習会や精度管理への積極

的な参加による技術員の知識向上などを積極的に進めております。

最近の動向をいくつか紹介させていただきますと、まず放射能測定があります。福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、放射能測定に対する需要が急激に高まりました。当社ではゲルマニウム半導体検出器を長野県下で最も早く導入し、様々な検体を測定しております。現在では「食品中検体中の放射性核種濃度測定 ISO/IEC 17025:2005」を認定取得し、精度における信頼性でも万全を期しております。

最近では農薬分析への関心も高まっております。そこで、最新型の高速液体クロマトグラフ質量分析計(LC/MS/MS)へ更新し、飲料水や食品中の残留農薬分析において、確かなデー

タを迅速に提供することが可能になっております。LC/MS/MSは農薬分析だけでなく、食品添加物や医薬品など様々な分野でも採用されている分析計で、今後益々活躍が期待されております。

当社は環境を調査・分析するという立場ですが、当社自身も環境への配慮を重視しており、エコアクション21を認証取得しております。お客様の要望にお応えする環境総合コンサルタント企業として、今後も日々努めてまいります。



賛助会員ご紹介

株式会社ミライ化成

当社のルーツをたどると、1892(明治25)年に創業し、医薬品販売を開始した河合薬品まで遡ることとなります。その後、時代の変化に対応して工業薬品を取り扱うようになり、現在まで長い歴史を刻んでまいりました。いくつかのターニングポイントを経て、2009(平成21)年には三谷産業株式会社グループの一員となり、2012(平成24)年には、「未来永劫お客様にご愛顧いただける企業」、「地域社会の未来に寄与する企業」への思いを込め、当時のクラヤ化成から現在のミライ化成へと社名を変更いたしました。

現在、化成品部門では、無機・有機化学薬品、試薬、半導体製造用高純度薬品、表面処理用薬品を、フードケミカル部門では、食品原料や食品添加物を主に販売しております。また、各種分析機器・装置、高度管理医療機器なども多くの取扱いがあり、お客様には本当に多様な商品でお世話になっております。事業拠点としては、長野・伊那の2事業所があり、そこから長野県全域をカバーする営業・物流体制を構築し、地域密着型のビジネスを展開しています。

多岐にわたる商品を最新情報や確かな技術提案とともに提供し、お客様の様々なニーズにきめ細やかに対応すること、これこそが我々の使命と考え、日々の企業活動を行っております。そして、当社の強みとするのが保管・物流機能です。毒物劇物



本社/千曲市雨宮2473 TEL.026-274-7662 FAX.026-274-7663

倉庫、危険物倉庫はもちろんのこと、最新式の温度管理倉庫、低温倉庫や温度管理トラックを備え、必要なのを、必要な時に、必要な量だけ、安全・確実にお届けする。ジャストインタイムのデリバリー体制で、お客様から評価と信頼を頂戴しております。また、2003(平成15)年には「エコアクション21」の認証を取得し、環境に配慮した事業活動も展開しています。

幅広い知識・情報網を活かした提案型営業というソフト面と、充実した保管・物流機能というハード面をベースに、今後は独自の商社機能もフル活用して、真にお客様の為にできるサービスを提供してまいります。貴協会様と長野県の分析業界の発展に、少しでもお手伝いできるよう努めていく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

趣味自慢

(社)長野市薬剤師会

武田淳志さん

とくにこれと云って自慢できる趣味は無いのですが、強いて言えば子供の野球のコーチをしている事かと思えます。

もともと、私は中学校から大学まで軟式テニスをしていましたので自分でも野球に携わる事になるとは思っても見ませんでした。大学を卒業して長野に帰省して来た頃に友人から地区の野球と一緒にやらないかと誘われ、入ってみたらかなりレベルの高い選手ばかりでついて行くのが精一杯でした。甲子園経験者も何人もいてこの人達と一緒にやるには野球を勉強しなくてはいけないと痛感し基本から勉強しました。今では子供達を相手に毎週野球漬けの週末です。楽しい事もあります。練習の成果が出て、子供たちの勝つてうれし泣きしている姿を見るのが楽しみです。

皆さんのお子さん達もこれから始めようとしているのであれば少年野球はお勧めですよ。



長野県環境測定分析協会正会員一覧

Table listing members of the association, categorized by region: 北信 (North Shinano), 東信 (East Shinano), 南信 (South Shinano), and 中信 (Central Shinano). Each category lists several member companies and their addresses.

賛助会員 岡谷酸素 株式会社 / 株式会社 北信理化 / 高山理化精機 株式会社 / タカヤマケミカル 株式会社 / アズサイエンス 株式会社 / 株式会社 理学 / 株式会社 ミライ化成

編集後記

第25回(社)日環協関東支部環境セミナー in Nagano (2014)が開催されるまでに6回の運営会議が開かれ、準備を進めてきました。当初は、環境セミナーの運営資金が調達できるか、技術発表者及び参加者が予定数集まるか等の不安材料ばかりの状況でしたが、7月23日の最終準備を行う段階では、その不安も消えていきました。「案ずるより産むが易し」という諺が頭に浮かびましたが、しつかり準備をした結果であったと思います。

環境セミナーの2日間は、受付作業、展示企業への対応、技術発表のデジタルデータの受取・確認作業等に追われましたが、スタッフそれぞれが分担業務を確実にこなし、大ことなく閉会式を迎えることができました。遠方から参加している方もあったと思いますが、多くの方々に参加していただいたのを見て、今回の環境セミナーの成功を確信しました。心の中で、スタッフ全員と円陣を組み、「長環協万歳」と叫んで会場を後にしました。

長環協の勝野会長をはじめ、北條実行委員長、高原事務局長、そしてスタッフの皆様、本当にご苦労様でした。

会報紙タイトル「ナチュラル」について [ナチュラルnatural]=自然なさま。天然。自然的。(若波書店 広辞苑より) / 純粋な分析結果、すばらしい信州の自然、などの意味合いを込めて命名しました。